

# 「笑顔」と「やる気」と「希望」の藤岡教育の推進

## 令和6年度の藤岡市の授業づくり

主体的な学び・深い学び・協働的な学び  
非認知能力の育成

学ぶ楽しさ分かる授業

やる気の生徒指導

### ◇学びのつながりを踏まえた授業づくり

「これまで、ここでは、このあとは」プレートを貼りましょう

日常化

**これまで** 既習事項や体験など課題解決のための手がかりを示します

**ここでは** ここで学ぶ価値や意義を明確にするために、今日やることを端的に示します

**このあとは** 単元の終末やねらいに迫る学習のゴールを意識させ、見通しを持たせます

学びのつながりを意識した授業を構想します	これまで	⇒	ここでは	⇒	このあとは
復習型のつなぎ教材を意識させます	ここでは	⇒	これまで	=	つなぎ教材(復習型) ⇒ このあとは
発展型のつなぎ教材を意識させます	このあとは	=	つなぎ教材(発展型)	⇒	これまで ⇒ ここでは
即時活用型のつなぎ教材を意識させます	これまで	⇒	ここでは	=	つなぎ教材(即時活用型) ⇒ このあとは

主体的な学習を促すつなぎ教材の活用

深化

#### つなぎ教材の3つの型を意識

- 1 復習型……前学年、前単元の学習内容、昨日の学習、宿題など
- 2 発展型……完成した姿、去年の児童生徒の作品、一流選手のプレー、手本など
- 3 即時活用型…模型や図(回路図など)、友達の意見、考え、日常生活につながる出来事など

#### 主体的な学習を促す授業づくりのポイント

- 1 興味・関心を喚起する(「なぜ」を引き出す)導入を行い、子どもと共にめあてを設定しましょう
- 2 単元や本時のゴールを明確にし、見通しを持たせ、粘り強く取り組ませましょう
- 3 自らの言葉で学習をまとめ、学んだことを客観的に振り返らせ、次の学習につなげましょう
- 4 思考する場面でじっくり考えさせ、子どもに任せて待つようにしましょう

◇授業のはじめに「めあて」の提示、授業の終わりにめあてを踏まえた「まとめ」・「振り返り」

◇複線型指導で、できた子どもを待たせない  
・タブレットとドリルパークの活用

### ◇生徒指導の実践上の4つの視点 (自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安全安心な風土)で児童生徒の意欲を高める

ネームプレートを貼りましょう

生徒指導提要 

<p>○自己決定 「ねらいにかかわる大事な場面で、自分で決める」 ・根拠をはっきりさせ、自分の考えをしっかりと決めさせる ・授業に参加している証として、決めたことを板書で確認させる</p>	<p>○自己存在感 「一人一人が認められ、活躍できる」 ・意図的に指名をするなど、授業の中で子どもを生かす ・子どもの考えを板書に見える化し、一人一人の存在を大切にす</p>	<p>○共感的人間関係 「互いに認め合い、共に努力する」 ・考えを共有し、お互いのよさを認め合う場面を取り入れる ・児童生徒の発言をつなげ、学び合いや交流を板書で示す</p>
<p>○安全安心な風土 「よさを認め・ほめ・伸ばす雰囲気をつくる」 ・お互いの個性や多様性を認め合える教室にする ・間違っても大丈夫と安心して発言できる関係をつくる</p>		

- ◇一人一台端末の有効活用
- 本時のねらい、発達段階、学習内容等を考慮し、効果的な場面で
  - みんなで意見を共有し、有効なつなぎ教材として
  - ICTのよさ(試行の繰り返し、思考の可視化、瞬時の共有化)を生かして



◇考えの整理に板書とノートとICT  
・学びのつながりを踏まえた構造的な板書による思考の視覚化  
・従来の書く指導によるノート指導の充実

# 藤岡市の特色ある教育活動

## 小中一貫教育

○9年間を通した系統的なカリキュラムを作成し、学びの連続性と生徒指導の継続により学力の向上を目指す。

## コミュニティ・スクール

○学校運営協議会を組織し、地域学校協働本部との一体的推進により、地域とともにある学校づくり、児童生徒の学力の向上を目指す。

## 高山社会学

○興味・関心をもとに地域学習を進め、活用の能力を身に付けさせる。  
○高山社の歴史的価値について学び、郷土を誇りに思い、愛する子どもの育成を図るとともに、持続可能な藤岡市を目指す。

## 算学塾

○算数・数学の面白さを実感させ、様々な問題に意欲をもって挑戦できるようにする。  
○既習の知識等を活用して、自ら課題解決ができる子どもを育てる。

## サマーイングリッシュチャレンジ

○英語が「わかる」「伝わる」という経験を通して、英語の楽しさに触れ、生涯にわたって英語を学ぶ意欲を高める。

## 教育フェスタ

○「理科自由研究」「ふるさと藤岡郷土研究」の中で、それぞれが考えた課題について調べたり、まとめたものを発表したりすることを通して、表現力を育成する。

## 英語教育の充実

○小学校低学年から外国語活動を実施して、ALTとふれあう体験を通して生の英語に触れさせ、小学校中学年・高学年、そして中学校へと、系統的な学習を展開する。  
さらに、カナダ・リジャイナ市とのホームステイにおける相互交流を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てる。

## チャレンジウィーク

○地域の協力を得て行う5日間の職場体験を通して、自分の将来に夢と希望と情熱を持ち、自分なりの「生き方」を見つめられるようにする。

## いじめ問題解決に向けた取組

○いじめ問題解決に向けた子ども会議や教育懇談会の実施を通して、子どもたちが主体的にいじめ問題を解決する態度を育てるとともに、いじめ防止担当教員を核とする学校・保護者・地域・教育委員会が、連携・協力していじめをなくすための基盤をつくる。

## 読書・ICT利活用

○学校での朝読書により習慣化を図り、家庭でも「家読(うちどく)の日」を中心に、読書する環境をつくることを呼びかけ、家庭と学校が連携して、子どもたちが読書に親しむ習慣を育てる。また、情報モラル教育を推進し、メディアとの正しい関わり方を身に付けると同時に、授業等でICTを積極的に取り入れ、有効に活用できる子どもを育てる。

学力の向上

活用する力の育成

世界にはばたく  
人材の育成

キャリア教育  
の推進

思いやりの心  
の育成

読書とICT利活用  
の推進

# 令和6年度 藤岡市の学校教育

## 笑顔、やる気、希望に満ちた子どもたち

### 小中一貫教育の充実

～一貫した目標・方法で学力向上を目指して～

- (1) 学びの連続性  
「これまで、ここでは、このあとは」を踏まえた系統的な授業実践
- (2) 生徒指導の継続  
生徒指導の4つの視点を生かした意欲を高める指導の継続
- (3) 一貫校としての教科部会と校内研修  
系統表の活用、教科の重点の共有、計画訪問の活用
- (4) 小学校の教科担任制や兼務教員による複数小学校での指導
- (5) 小中学校兼務教員による乗り入れ授業

## 目指す子ども像・目標の共有 9年間を見通した社会に開かれた教育課程

### コミュニティ・スクールの推進

～学校・地域の協働で子どもたちの笑顔を目指して～

- (1) 学校運営協議会での承認・熟議  
・学校運営方針・教育課程編成及び実施の承認  
・学力向上・学校課題の解決策・対応策の熟議  
⇒評価部・広報部・連携推進部による組織的な取組
- (2) 地域学校協働本部との一体的な取組による教育活動の充実  
・熟議した解決策を地域学校協働活動推進員が  
地域ボランティアにつなぐ  
⇒[学年・学級経営、教科指導・読書][郷土学習・地域との交流]  
[キャリア教育][安全教育] 4つの部会での組織的な取組

藤岡市教育委員会